

令和7年度 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

岩手大学教学マネジメントセンター、岩手大学教務委員会

（責任者名） 山本 欣郎

（役職名） 理事（教育・学生担当）・副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムを構成している「情報基礎A」は本学学士課程の必修科目である。全学生の履修状況については、WebClass（LMS）において課題やレポートの提出状況等を確認できるほか、達成度評価システム（ポートフォリオ）により各学生の修得状況等を確認することができる。さらに、プログラムの修得状況については、教学マネジメントセンターにおいて、全履修学生の成績評価の比率と学生アンケート結果を踏まえた分析等を行っており、その結果を全学教務委員会において確認し、各授業科目やプログラムの改善等についての審議を行っている。</p>
学修成果	<p>「情報基礎A」の履修者を対象とした授業アンケートにより、授業内容の難易度、面白さ（興味深さ）、分かりやすさや、意欲的に授業に臨めたか、集中して授業を受けることができたか、そして授業外学修の合計時間など、学修状況を多角的に尋ね、回答結果から学修の様子・手応えを確認している。また、入学時、2年次、卒業時に実施する学生調査において「情報リテラシー」に関する設問を3項目設け、5つの到達段階からなるルーブリックにより、自己評価の変化から学修成果を可視化する仕組みを構築している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業アンケートの「履修を通じて知識や技能が身についているという実感がありましたか」という設問で、「1：全く実感がなかった」から「5：とても実感があった」までの選択肢に対し回答割合がそれぞれ0.7%、4.0%、28.3%、42.6%、24.3%（平均値3.86）となっており、多くの履修者が内容理解の実感を得たことを確認できている。また、「意欲的に授業に臨めましたか」という設問では「1：全く意欲的でなかった」から「5：とても意欲的だった」までの選択肢に対し回答割合がそれぞれ0.4%、7.0%、35.8%、37.0%、19.8%（平均値3.69）、「集中して授業を受ける（参加する）ことができましたか」という設問では「1：全く集中できなかった」から「5：とても集中できた」までの選択肢に対し回答割合がそれぞれ0.4%、4.9%、33.0%、39.0%、22.6%（平均値3.78）となっており、概ね良好な学修状況が窺える結果と言える。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業アンケートの「授業内容が期待通りのものでしたか」という設問で、「1：期待以上の内容だった」「2：期待通りの内容だった」「3：期待外れの内容だった」の選択肢に対し回答割合がそれぞれ8.8%、89.6%、1.6%となっており、本学の学士課程における必修科目として、期待通りの内容と推奨できる科目であることが確認できる結果となっている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムを構成している「情報基礎A」は本学学士課程の必修科目のため、履修率は100%である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学卒業生を雇い入れた事業者を対象に令和8年度に実施予定のアンケート調査に本プログラムの効果を尋ねる設問を設け、外部からの評価を踏まえプログラムの改善に役立てる予定である。</p> <p>いわて高等教育地域連携プラットフォームならびに経営協議会の場を活用し、地域産業界からの意見を伺い、教育プログラム改善の参考とする。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>令和7年度の授業アンケートでは授業内容の面白さに関する設問で「1：全く面白くなかった」から「5：とても面白かった」までの選択肢に対し回答割合がそれぞれ0.7%、8.8%、37.1%、40.5%、12.9%（平均値3.56）、学ぶ意義が理解できたかという設問で「1：全く理解できなかった」から「5：とても理解できた」までの選択肢に対し回答割合がそれぞれ0.4%、3.2%、28.6%、40.5%、27.3%（平均値3.91）となっており、当該分野の面白さや学ぶ意義が概ね伝わっているということが推察される結果となった。さらに、学士課程における学生調査の結果や卒業後の調査結果についてもプログラムの改善等に反映させていく予定である。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>令和7年度の授業アンケートでは授業内容の難易度に関する設問で「1：簡単すぎる」から「7：難しすぎる」までの選択肢に対し回答の平均値が4.56、説明や教材の分かりやすさに関する設問で「1：とても分かりにくかった」から「5：とても分かりやすかった」までの選択肢に対し回答割合がそれぞれ1.6%、8.6%、35.8%、36.6%、17.4%（平均値3.60）となった。また、全学FD研修「大学教育における生成AIの利用」（教学マネジメントセンター主催、令和7年度実施）により生成AIを活用した授業実践や教育評価における生成AIの影響等に関する最新の知識を共有するなど、社会の変化に応じた教育方法の検討にも取り組んでいる。</p>